

背を工夫する

技01

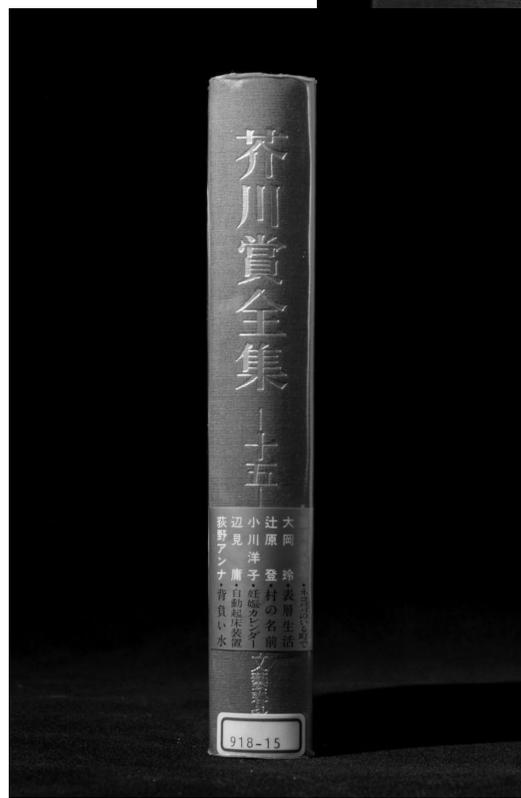


瀧澤美恵子・大岡玲・辻原登・小川洋子・辺見庸・荻野アンナ
ネコバのいる町で
玲・表層生活
登・村の名前
洋子・妊娠カレンダー
庸・自動起床装置
アンナ・背負い水

芥川賞受賞者の小説を集めた本。著者は複数いるのだが、著者や作品名は函に印刷されているだけで、本体にはなにもなかった。オビの著者名を切り取って、カバーを掛けるときに、貼り込んだ。浪江慶さんの図書館を見学した時、手書きの内容紹介が本の背に貼られていたのを思い出す。

芥川賞全集 第十五巻

著●瀧澤美恵子・大岡玲・辻原登・小川洋子・辺見庸・荻野アンナ
2002年4月10日第一刷／文藝春秋
定価3400円(税込)／四六判・上製函入り・456ページ
ISBN4-16-507250-8



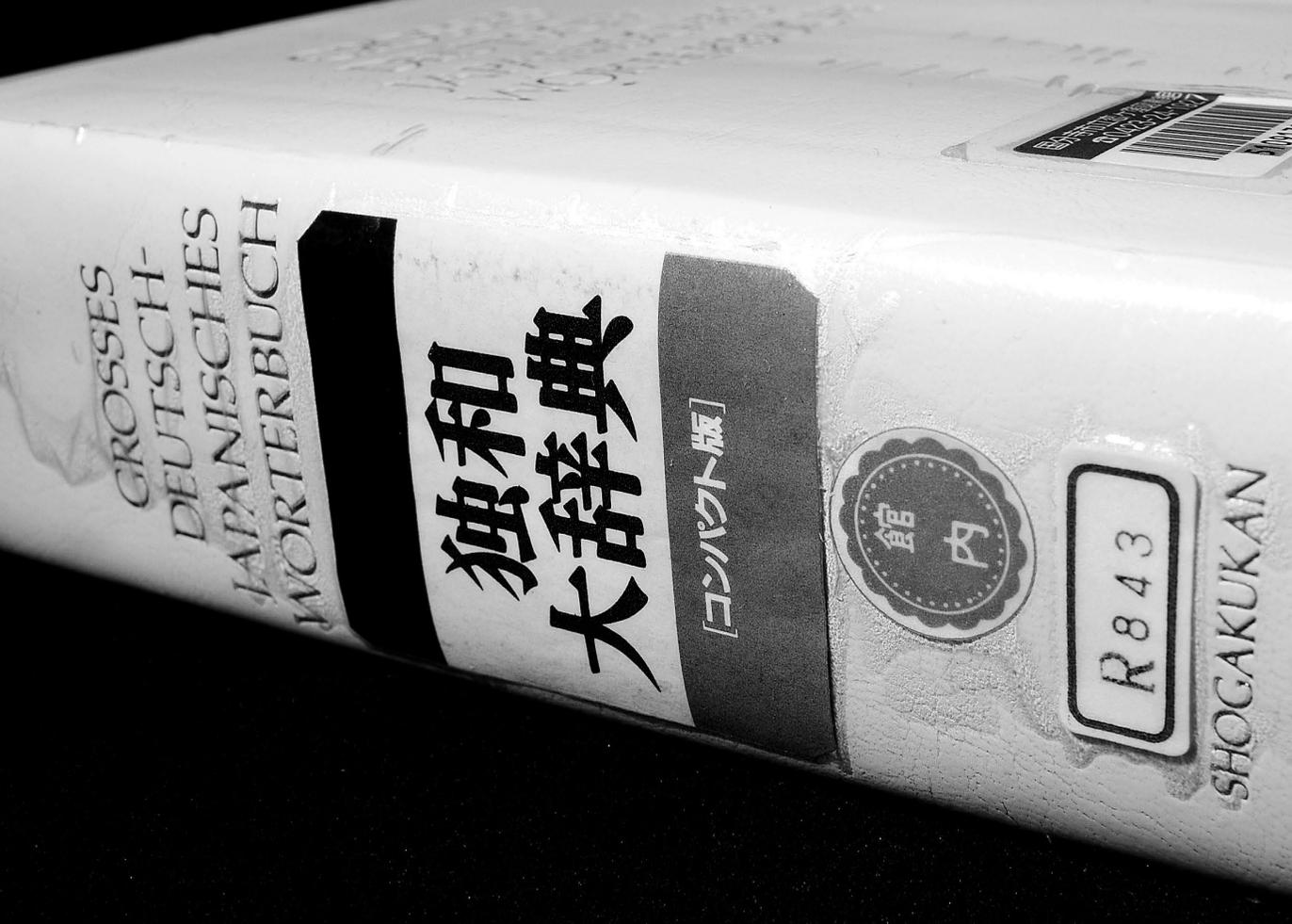
ブックカバー

写真で見る図書館②

日野市立図書館以後、公共図書館の本にはあたりまえにブックカバーが掛けられるようになった。前川恒雄の『われらの図書館』(1987年・筑摩書房)には農業用の大きなビニールロールを買ってきて、職員が一冊一冊にカバーを掛け始めるエピソードが描かれていた。フィルム装備は委託化がすすみ、掛けてから納本される館も多い。カバー掛けのこだわりが図書館の中で話題にされることは今や稀だ。編集委員の堀渡がその工夫の一端を紹介する。

撮影●向殿政高 構成●堀 渡

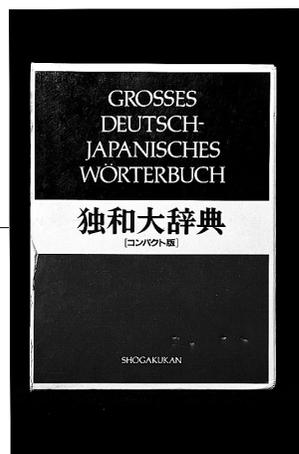




本体はビニール装の辞典。ドイツ語のアルファベット書名だけでは不親切と、函にあった「独和大辞典 コンパクト版」の文字をさりげなく貼り込んだ。

小学館 独和大辞典
[コンパクト版]

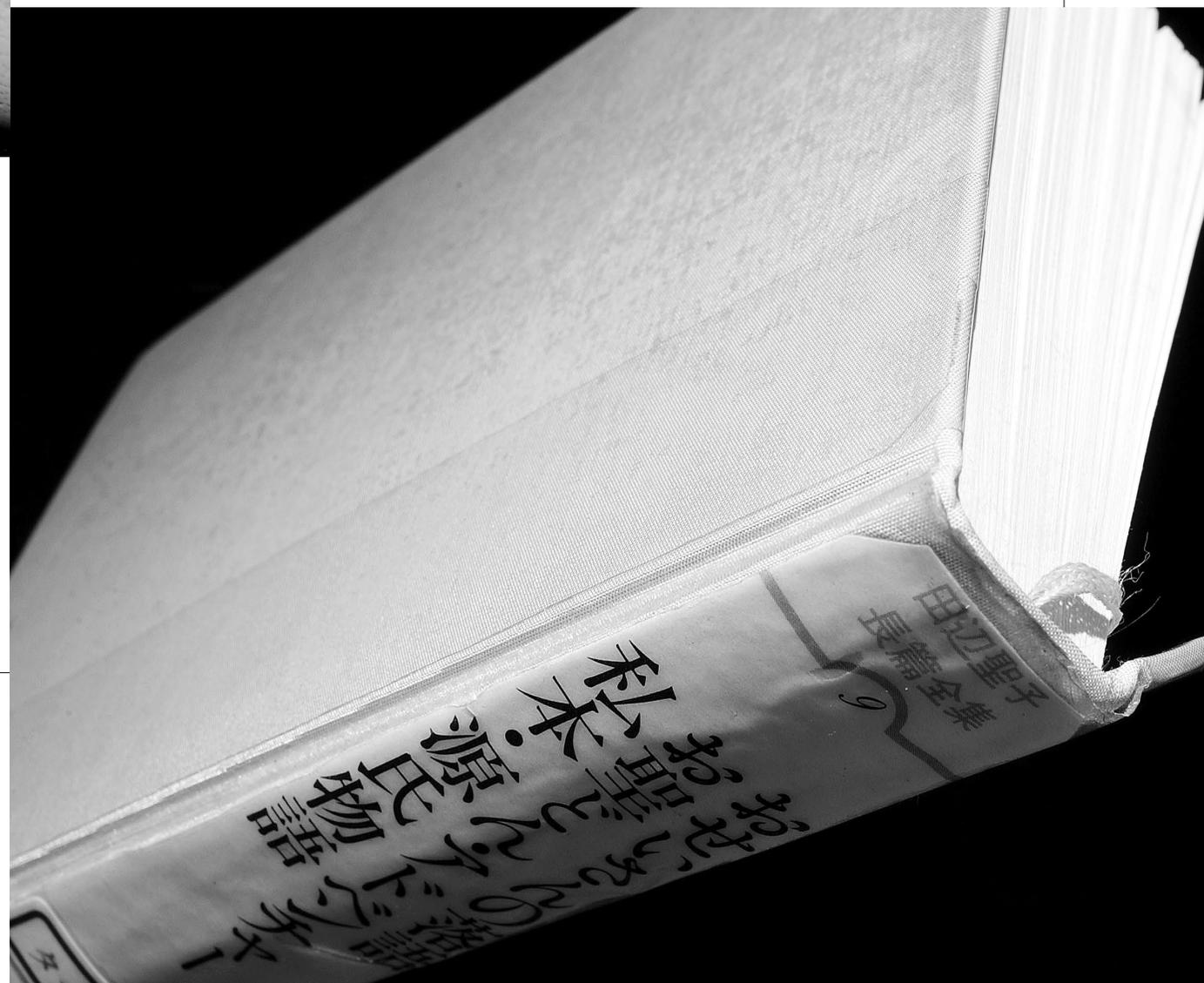
編者代表●国松孝二
1990年3月20日初版第二刷／小学館
B6版・並製函入り・2882ページ
ISBN4-09-515031-9



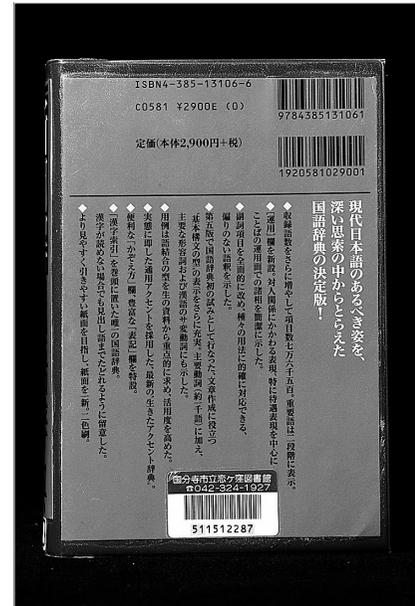
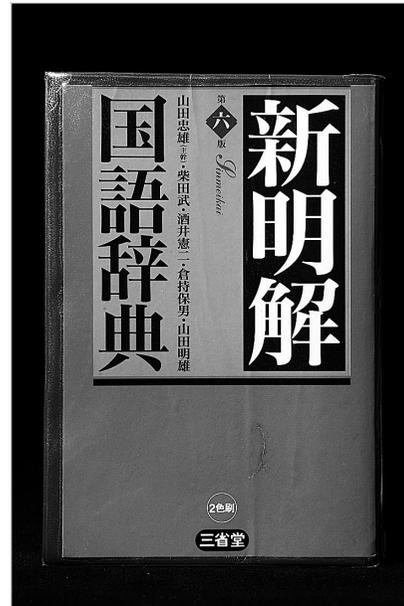
田辺聖子長篇全集 9

著●田辺聖子
1982年5月1日第一刷／文藝春秋
定価1800円
四六判・上製函入り・408ページ
ISBN不明

函入りの本は、すいぶん少なくなった気がする。その函は、カバーを掛けるときに捨ててしまう。この本には小説が、「おせいさんの落語」「お聖どん・アドベンチャー」「私本・源氏物語」の3篇入っているので、函に印刷されていた3篇のタイトルを貼り込んだ。世界のトップレベルにある日本の装幀だが、函入りの本は函をとると、なんだか間がぬけている。

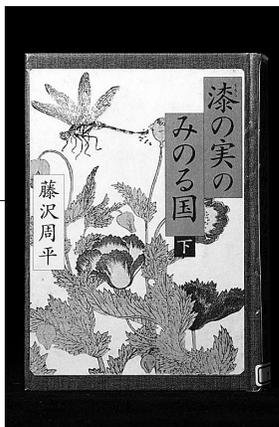


函の絵を生かす



新明解国語辞典
第六版

編者●山田忠雄(主幹)・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄
2005年1月10日第一刷／三省堂／定価2900円＋税
B6変型判・並製函入り・1696ページ／ISBN4-385-13106-6



近年しみじみと人気の藤沢周平のやや古くなった本だが、「函絵生かし」の傑作!と言われたい。装画は、国立国会図書館所蔵、歌麿「画本虫撰」。さすが。

漆の実のみる国(上)(下)

著●藤沢周平
1997年5月20日第一刷／文藝春秋
(上)定価1800円(税込)／四六判・上製・函入り・256ページ
ISBN4-16-362760-X (下)定価1800円(税込)／四六判・上製・
函入り・272ページISBN4-16-362770-7



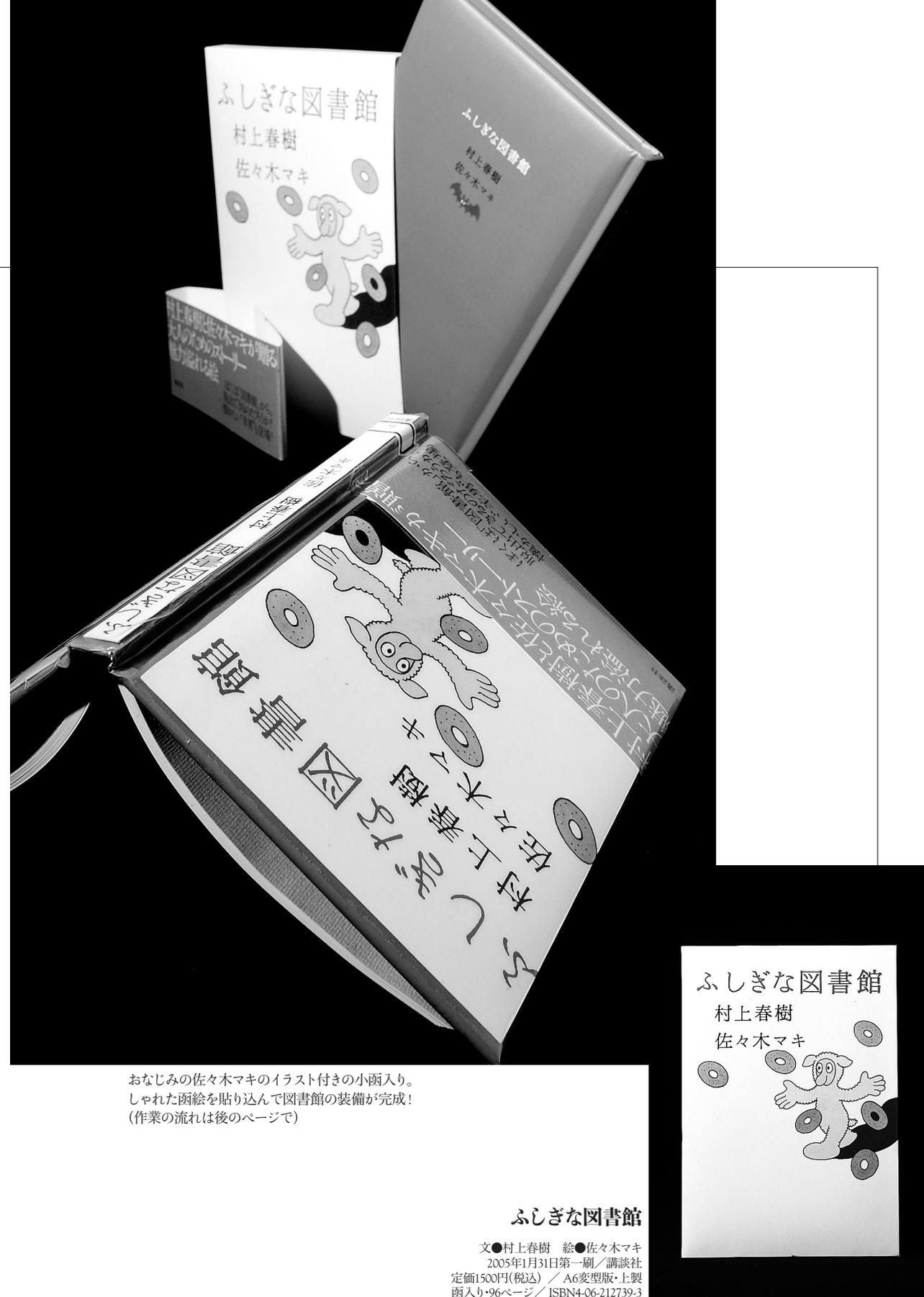
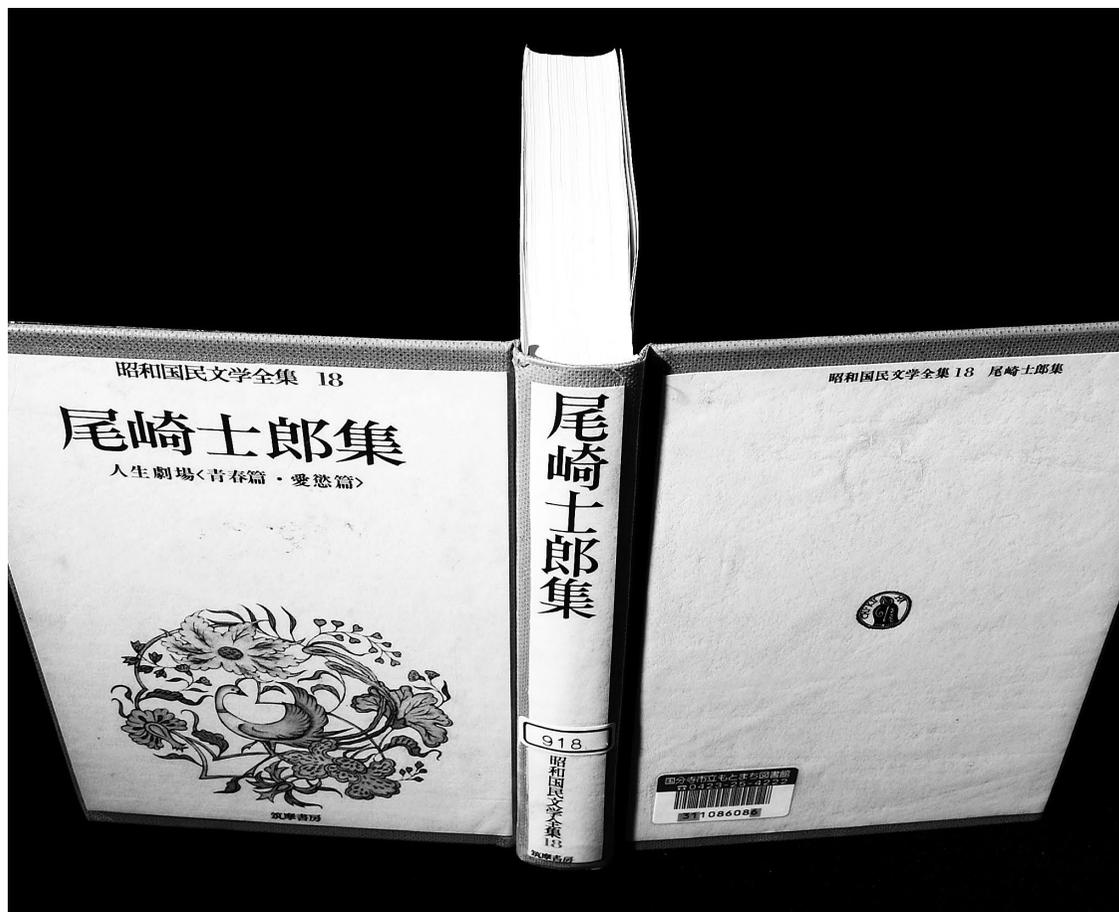
新解さんも函を捨ててしまえばただの臙脂色のビニール本。函を表紙・背・裏表紙の三面に切ってうすく紙をはがして本体に貼る。これを函の「三枚おろし」と言う。函絵を使う場合、背に対して右と左が逆になるので要注意。



尾崎士郎集
昭和国民文学全集 18

著●尾崎士郎
1974年3月10日第一刷／筑摩書房
定価不明／四六判・上製函入り
455ページ／ISBN不明

少し前の大衆文学の蔵書を増やすために古書店から仕入れた全集。もともとこういう装幀だったかのように、写真では見える。



おなじみの佐々木マキのイラスト付きの小函入り。
しゃれた函絵を貼り込んで図書館の装備が完成！
(作業の流れは後のページで)

ふしぎな図書館

文●村上春樹 絵●佐々木マキ
2005年1月31日第一刷／講談社
定価1500円(税込)／A6変型版・上製
函入り・96ページ／ISBN4-06-212739-3



カバーを生かす

カバーの裏側は半身ヌードを含む山本容子の幼少期や学生時代からのスナップ集。
これを殺してはいけないと、カバーは本体の一つの角だけでつなげておいた。
図書館から借りて行かれた方はどうぞ本文の進行に合わせて当時の写真をご覧ください。



マイ・ストーリー

著●山本容子
2004年9月15日第一刷／新潮社
定価1470円(税込)／四六判変型・上製
222ページ／ISBN4-10-470501-2

ブックカバー技の工程

撮影・木村 瞳



09 フィルムをかける。空気やしわを残すのは半人前。背の付近で浮かさないよう、みぞにごしごし。



05 フィルムをかける前にのりで仮おさえ。函の表と本の表紙は逆位置なので気をつける。



10 両面かけた後、角を本体に食い込むほどカット。フィルムをおり返す。



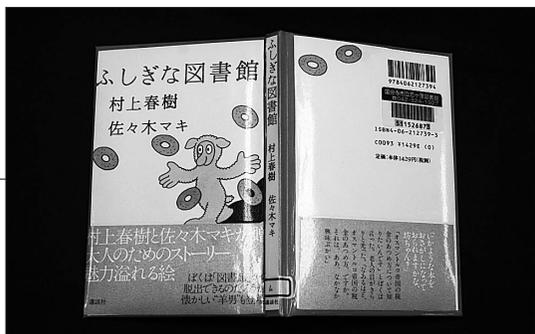
06 帯を背だけ抜いて、表・裏両面に貼る。



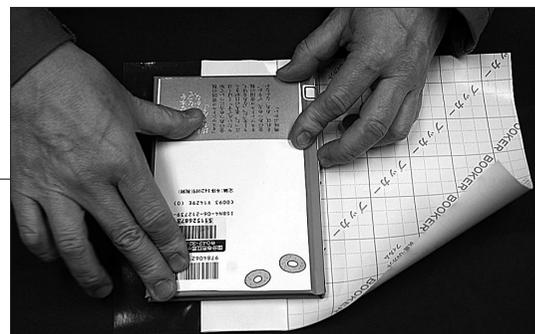
11 最後に背の天地をカットして仕上げ。



07 蔵書のバーコード。装幀を極力生かすため、本のバーコードに重ねてしまう。



12 完成！ これでいつまでも羊男が一緒。



08 フィルムを取り出し、折り返しを計算して、この本用にカット。



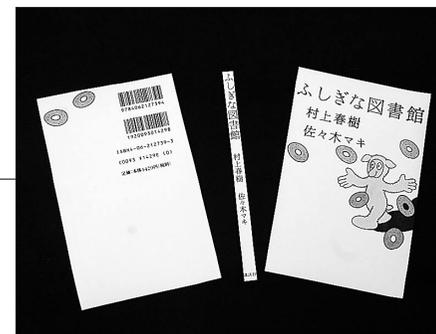
左が書店での販売のかたち。本体は朱色鮮やか肉厚のビニール装。クリーム色のうすいしゃれた函入り。右が某図書館の棚に配架されているかたち。



03 カッティングシート上で切断。きれいな直線を出すには両手でおさえつけること。



01 まず函をへり付近でざくざくと分解。帯も使うので別にとっておく。



04 三枚おろしのパーツができた。厚い函だと、函絵をうすくはがさないといけないが、今回はラク。



02 切った函の両面と背を本体にあわせ調整。だいたい切るのどこを生かすか？